

4 NPOふうどの取り組み

〈埼玉県・小川町〉



●ゴミがエネルギーに変わる

小川町では、NPO法人の小川町風土活用センター（NPOふうど）が中心になり、地域に出る生ゴミなどをバイオガスプラントで燃料用ガス（メタンガス）や液肥（液体肥料）に変えるバイオマス事業をおこなっています。

バイオマスとは、再生可能な生物由来の有機性資源（石油などの化学燃料は除く）のことで、小川町は、NPO・公募住民・行政の三者が助けあってバイオマス事業を行っていることで注目を浴びています。

生ゴミは燃やせばゴミですが、活かせば資源に生まれ変わります。バイオマス事業に参加する住民によって分別された生ゴミは、煮炊き等に使えるガスや良質の液体肥料に生まれ変わります。そのための道具がバイオガスプラントです。

小川町内では、1992年より家庭規模でのバイオガスプラントの運転をおこなってきました。現在はコンクリート、ポリエチレン簡易型を含めて8基が稼働しています。ガスは家庭調理用が主ですが、エネルギーよりも液肥の利用として、元肥、追肥の両方に利用されています。

バイオガスプラントによって生まれた液肥は、肥料分が豊富というだけではなく、ビタミンや腐植質がたくさん含まれていて、土壌を豊かにするのに非常に効果があります。発酵中には病原菌や寄生虫が死滅しますので、安全で安心な有機肥料が得られるのです。

液肥と同時に得られるガスは、都市ガス並みのカロリーがあります。調理や照明、発

電にも使えるガスで、りっぱに生活の役に立つものです。

●行政とともに歩み始めた環境基本計画

NPOふうどは、バイオガスの建設・運転技術、液肥の活用などで、すでにかなりの実績を積み上げてきています。こうしたことから、NPOふうどと行政は、生ゴミの循環資源化事業の実用性を確認するための作業を、現在進行している「環境基本計画」の実践の一環として行うことに合意しました。

●野菜クーポンのFOODOを

2001年6月から生ゴミを提供してくれた世帯に、資源提供に対してのお礼としてクーポン券が発行されています。現在の生ゴミ焼却処理コストとバイオガスプラントで処理した場合との経費の差が、もととなって地域内でつかえるお金のクーポン券に変えられているのです。発行元は「小川町農業後継者の会」で通称「わだち会」という農業組合です。野菜クーポンの単位は、FOODO（ふうど）で、クーポンは5FOODOが500円相当になります。



バイオガスの地域循環は、3つの要素がスムーズに連動することが不可欠

バイオガスを利用した地域循環を分析して考えてみましょう。まず、バイオガスの原料を供給する家庭・各種産業があります。次に、農業の肥料や土壌改良に必要とされる需要とバイオガス事業があり、さらに生産されたバイオガスエネルギーと農産物を

再生産する地域の産業があります。このようなバイオガスの原料供給源、バイオガスの需要、バイオガス生産のための施設と産業の活動を上手に連動させながら運営していくことが、バイオガスを使った循環事業を発展させることとなります。

